

# この人に

聞く

クルマ社会、夏の日差し、急勾配の地形。沖縄で自転車が流行らない理由は枚挙に暇がない。だからこそ「電動アシスト自転車」が有望だと説くのがe-bike-okinawaの店主、伊波寛人氏だ。

健康志向や免許返納でマイカー主義が揺らぐ中、この新たな乗り物の持つポテンシャルをお聞きした。

## 自転車が普及していない沖縄ですが 電動アシスト自転車の需要は これから伸びてくると思います。

e-bike-okinawa 店主  
**伊波 寛人**  
いは ひろと

1980年 那覇市に生まれる  
1998年 那覇工業高校を卒業  
県外にて自動車整備工として働く  
2003年 バイク整備・販売店にて勤務  
(~2020年7月)  
2019年 e-bike-okinawaを開店

### 電動アシスト自転車とは？

自転車ながらモーターとバッテリーを搭載し、ペダルを漕ぐ力をサポートしてくれる「電動アシスト自転車」。県外ではすでにオートバイをしのぐ普及を見せ、ポピュラーハン化交通手段として定着しつつある。

沖縄ではまだマイナーな存在だが、自転車専門店やホームセンターなど取り扱うところも増えてきた。だが専門店となると、那覇市若狭の「e-bike-okinawa」が唯一といつていい。

同店の店主である伊波寛人氏は、もともとバイク販売店に勤めていたほどのバイク好き。電動アシスト自転車に乗ったのは結婚して一児をもうけてからで、子どもを乗せてのサイクリング用に購入したのが動機だったという。

「子どもを後ろに乗せて県総合運動公園のサイクリングコースを走つたんですが、これがとても爽快で楽しく、子どもも喜んでくれたんです。こんなに良いものがなぜ沖縄では流行っていないんだろうと不思議に思いましたね」

そもそも沖縄では自転車の需要が少ない。クルマ社会である上、夏の暑さから敬遠する人もいる。「クルマで移動していると気づき

にくいんですが、意外に起伏のある道が多いんですよ。それならな

おさら電動アシスト自転車の需要は多いんじゃないかと思ったのが、サポートしてくれる「電動アシスト自転車」。

バイクをしのぐ普及を見せ、ポピュラーハン化交通手段として定着しつつある。

沖縄ではまだマイナーな存在だ

が、自転車専門店やホームセンターなど取り扱うところも増えてきた。だが専門店となると、那覇市若狭の「e-bike-okinawa」が唯一

で漕いでもらうと、だいたいの道

はすいすい走れますよ」

値段はモデルによってさまざま

におさら電動アシスト自転車の需要は多いんじゃないかと思ったのが、

サポートしてくれる「電動アシ

ト自転車」。

バイクをしのぐ普及を見せ、ポピュラ

ーハン化交通手段として定着しつつある。

### ランニングコストの安さ

電動アシスト自転車は、人が漕ぐ力を1とした場合、最大で2の力をモーターで加算する。つまり1の人力で3の出力が得られる

ことになり、普通なら気合いを入れて漕ぐ必要がある坂道でも楽に走ることができる。

なおアシスト比率には速度制限があり、時速10キロをピークに徐々に低減していく。時速24キロに達するとゼロになり、そこからは人

で漕いでいるところになる。

「漕いでいて一番楽に感じるのは

時速17、18キロあたりです。ちょ

うと向かい風が気持ちよく感じる

くらいですね。そのくらいの速度

ちなみに日本で一番売れている

のはパナソニック製の「ビビ」だそ

うだ。典型的なママチャリタイプで、

お値段も11万円程度と手頃。これ

のものが売れ筋だそうだ。50cc

のスクーターより少し安い程度だ

が、ランニングコストは格段に良

い」という。

「1回の充電で30～50キロは走り

ますが、フル充電しても電気量は

20円もかかりません。充電にかかる時間も3～5時間程度です」

充電は専用の充電スタンドを家

庭用のコンセントにつなぎ、そこ

にバッテリーを差し込む形式だ。

モデルによってバッテリーの容量

も異なるので、毎日の通勤に使う

など頻繁に使う人には、大きめの

バッテリーを搭載したモデルを薦

めているそうだ。

e-bike-okinawaの店内には所狭

いとさまざまなモデルが並ぶ。マ

マチャリと呼ばれるシティサイク

ル型やスポーツタイプなロードバイ

ク型、高齢者でも安心の三輪型も

ある。電動アシスト自転車に惚れ

込んだ伊波氏が、自分が乗りたい

こともあってさまざまなモデルを

仕入れているためだ。

「運動不足解消のために通勤に使

は「運転免許を取るまでの乗り物」

といいうイメージが強い。しかし、

伊波氏は今後間違いなく需要が伸

びると見ている。

「運動不足解消のために通勤に使

は「運転免許を取るまでの乗り物」

といいうイメージが強い。しかし、

伊波氏は今後間違いなく需要が伸

びると見ている。

「運動不足解消のために通勤に使

は「運転免許を取るまでの乗り物」

といいうイメージが強い。しかし、

伊波氏は今後間違いなく需要が伸

びると見ている。

「うちで一番売れているのはクロ

スバイクを小さくしたような小型

のものですね。こういう折り畳み式も人気がありますよ」



だが試乗すると想像以上に軽快な走りに驚くそうだ。

「乗り始めるうちに自転車の魅力そのものにハマる人も多いんです。通勤用に安いものを買つたけど、乗つたら楽しくて、半年もしないうちにもつと良いものに買い替え方もあります」

高齢者の移動手段としても、今後注目を浴びるのは間違いない。全国的に免許返納の機運が高まっているが、沖縄ではクルマがないと行動範囲が大幅に狭まる。そこをカバーする「小さなモビリティ」として、電動アシスト自転車の潜在力は高い。ただし、高齢の親へプレゼントしたいという場合はまず親子で来店してほしいという。

「自転車は一度乗つたら忘れない」といいますが、70代になると意外と乗れなくなつている方もいらっしゃるんです。いざプレゼントされて乗れなかつたとなると、親御さんの方もショックが大きい。だから、まずは一緒に来店して、試乗してほしいですね」

自転車はペダルを漕ぎ、スピードを出ししながらバランスを取つていく乗り物。久しく離れていると忘れがちだが、実はスクーターよりも乗るのが難しいのだ。

そうした人のために三輪車タイプもあるのだが、中には地面から

足を離すことができないという人

もいるのだと。そこで伊波氏は

「50～60代のうちから生活に電動アシスト自転車の選択肢を含めて欲しい」と薦める。

「クルマにも乗りつつ、近所への買い物は電動アシスト自転車を使おう。そうやって慣れておくと、免許を返納する時も問題なく自転車に切り替えられますから」

仮に公共交通機関のサービスが手厚くなつたとしても、自由に移動できる手段があるのとの違いでは大違いだ。超高齢化社会を迎えるにあたつて、元気な高齢者を増やす意味でも「小さなモビリティ」が果たし得る役割は大きい。

#### 10人10通りの楽しみ方

日本でも普及しつつある電動アシスト自転車だが、海外ではどうなのだろうか。伊波氏によれば、ヨーロッパでは車の乗り換え需要もあってユーザーは増加の一途をたどっているそうだ。

「あちらではガソリン車からEVへのシフトが進んでいますが、クルマを持たない層がかなり増えるのではないかと言われています。

その代わりになる移動手段がカーシェアリングやウーバー、そして電動アシスト自転車なんですよ」

e-bike-okinawaでは電動アシスト自転車の時間貸しも行つており、

外国人観光客がよく利用しているそうだ。

「うちはフランスなどヨーロッパからのお客さんが多いのですが、

そうした方は日本の交通事情に詳しいし、そもそもクルマに乗らないという方も多いんです。それで電動アシスト自転車が好まれるんですよ」

中には若狭から沖縄市の「沖縄こどもの国」まで往復する剛の者もいるという。また日本人観光客でも、那覇の渋滞を見越して電動アシスト自転車での移動を選ぶ人も増えているそうだ。

通勤や買い物といった生活の足から観光まで、電動アシスト自転車の活躍場面は広がりつつある。単純に「○○用」というのではなく、10人いれば10通りの楽しみ方があるのだろう。

伊波氏個人の「一番楽しい乗り方」は、折り畳み式のモデルを車に積み、南部を散策することだそうだ。「どこかに車を停めて、自転車で裏道を走るんです。これがすごく楽しいんですよ!」と目を輝かせる。

沖縄ではまだ普及の端緒に付いたばかりの電動アシスト自転車。伊波氏にはその輝かしい未来がよりもよく見えているようだつた。

